

令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日から令和6年3月31日まで)

学校法人 北上学園

1. 設置する学校・学科等

専修大学北上高等学校

普通科・グローカルビジネス科(商業科)・自動車科

専修大学北上福祉教育専門学校

保育科・福祉介護科

認定こども園 専修大学北上幼稚園

0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児

2. 理事会・評議員会の構成（令和6年3月31日現在）

・理事定数 13人以上16人以内

現在数 15人 (内、理事長1、常勤理事4)

選任区分 設置する学校・園の長

評議員のうちから評議員会で選任

学識経験者のうち理事会で選任

学校法人専修大学より派遣

・監事定数 2人

現在数 2人 選任区分 理事会で選任

・評議員定数 28人以上33人以内

現在数 32人 選任区分 設置する学校・園の長

設置する学校の卒業生から理事会で選任

法人の職員のうちから理事会で選任

学識経験者として理事会で選任

学校法人専修大学より派遣

教職員数

令和5年5月1日現在

	教員数					職員数							合計 非常勤職員			
	本務				非常勤講師	本務					事務長	専任職員	特別職員	常勤職員	専任技職	小計
	専任教諭	特別講師	常勤講師	小計		事務長	専任職員	特別職員	常勤職員	専任技職						
高等学校	46	1	3	50	12	1	7		1	3	12	3	77			
専門学校	10	1	1	12	26	※(1)	1				1	1	40			
こども園	19		2	21	18	※(1)	1				1	4	44			
計	75	2	6	83	56	1	9	0	1	3	14	8	161			

※高等学校事務長は専門学校事務長兼務

※高等学校専任職員1名はこども園事務長兼務

令和5年度 北上学園事業報告の評価

目標値の考え方

各校の事業計画の目標について、年度末の実績値に応じて、「A・B・C」の3段階で示します。

達成率	
A	おおむね目標値どおりの場合 (目標値に対して110%未満、90%以上の実績値を達成した場合)
B	達成している部分もあるが、不十分である場合 (目標値の90%未満の実績値の場合)
C	目標値を下回った場合（全く達成していない） (目標値の50%未満の実績値の場合)

令和5年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【専修大学北上高等学校】

入学定員（300名）の充足を第一の目的に据え、そのために、生徒・保護者・教職員の満足度を高め、地域に開かれた学校として、社会に貢献する有為な人材を育てる教育を行う。

令和6年度入学生	普通科	191／185名入学(充足率103.2%)
310名／300名	グローカルビジネス科	81／80名入学(充足率101.3%)
充足率103.3%	メカニックエンジニアリング科	38／35名入学(充足率108.6%)

1 教育内容の充実について

達成度 B

新カリキュラムによる「未来を創る学び」の実現に向けて、普通科2年各専攻がスタートし、外部人材も活用しながら「新たな学び」がスタートした。期待通りの成果は出ていると思うが、完成年度に向けて、道半ばである。次年度も継続して努力と工夫を重ね、3学年揃うグローカルビジネス科、新たにスタートするメカニックエンジニアリング科ともに生徒・保護者の満足度を上げるべく教育内容の充実に取り組んでいきたい。

（1）建学の精神を柱とした道徳教育を充実させ、豊かな人間性を身につける。

建学の精神である「報恩奉仕」の説明用紙を各クラスに掲示するとともに、日々のHR活動を各クラス担任・副担任二人で行うことにより、日々の生活における留意事項の徹底を図った。良い行いも積極的に紹介しながら、豊かな人間性を身につけさせる指導を実践した。

（2）家庭や関係機関と連携しながら、規範意識を高め、基本的生活習慣の確立を図る。

担任・副担任複数にて毎朝HRを行い、様々な変化に気づきながら指導を実践し、朝学習や連絡事項の徹底を図った。適当な時期に生徒や保護者と面談を行い、情報収集に努めるとともに、SSWrやSCを活用しケース会議を定期的に開催して、様々な課題解決を図った。

（3）新たな教育課程を軌道に乗せ、スクールミッション・スクールルームリレーに沿った、適切な指導を実践する。

新教育課程2年目で特に普通科改革の各専攻の授業を関係各所のご協力のもと、軌道に乗せることができた。全校で、建学の精神、校訓をもとにしたルーブリックに沿っての教育活動をシラバスに表し生徒に示しながら実践した。生徒一人ひとりの生きる力を育むとともに、未来を創る学びの実践に努めた。

（4）既存学科コースと新学科コースの特性を生かした、特色ある教育活動の実践を行う。

新教育課程2期生を迎える、新たな学びの精神を浸透させつつ、普通科最後のコース及び商業科についても、探究型の教育活動の充実に努め、有終の美を飾ることができた。最後に最高の成果を収めた特別進学コースや専修大学への進学者増など、新たなマインドでの取り組みがいち早く花開いた一年であった。実業科においても、商業・グローカルビジネス科では、専北マルシェなど実践型の授業の充実を図ったほか、自動車科でも、資格取得にも積極的に挑戦した。

（5）新たな進路指導体制・システムを構築し、国公立大学・難関大学等生徒の希望実現に努める。

最後の特進コースとなつたが、一人ひとりの志望に寄り添い丁寧な指導を行い、8名の国公立大学合格を果たし、過去最高の合格率を達成した。早稲田大学をはじめ難関大学合格も果たし、専北塾をはじめ生徒の多様なキャリア育成に寄与できるプログラムを提供した。

（6）専北塾の充実を図り、多様な能力の開発と個性を伸ばす活躍・経験の場を設定する。

専北塾では、進学にとらわれず生徒の興味関心に寄り添ったプログラムを提供するとともに課外活動がより魅力的になるように、部活動サミットを開催し、生徒のより主体的・自主的な活動を促す活動を目指して、工夫を凝らして活動し、成果を上げている。

（7）ICT環境の充実を図り、新校舎を生かした新たな学びを実現する。

新たな校舎では、Wi-Fi環境の整備拡充やプロジェクター・ホワイトボードの整備により、よりICTを活用した教育実践を展開することができた。新入生から一人一台端末を導入したが、大きなトラブルや問題なく、授業を実践している。

(8) 自らの学びやキャリアをデザイン出来るよう、探究型学習を充実させる。

一層の「SENTAN」の充実を図り、より組織的に総合的な探究の時間に取り組んだ。全職員によるゼミ形式の展開では、それぞれの持ち味を発揮する中で、多様な生徒の進路にアプローチした他、すべての教科で探究型の授業を推奨し実践に向けて取り組んだ。

(9) 教育相談体制の充実を図り、支援が必要な生徒や学校不適応への適切な対応を行う。

ほのぼのルーム担当教員を中心に、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSWr)をフル活用したほか、学習支援員の活用により、生徒や保護者の困り感に寄り添うことができた。定期的にケース会議を持ち、関係機関との連携も図り課題の解決に努めた。

(10) 学校評価・授業評価の実施結果を活用し、改善とより一層の充実を図る。

学校評価については、今年度は BLEND で全保護者に対しアンケートを実施した。アプリの不具合が見られ正確性に欠ける結果であるが、次年度に向けて改善中である。集計後保護者に公表した。（別紙参照） 授業評価は、全校生徒に同様に BLEND を使用し、全教科の授業評価のアンケートを実施し集約後、職員が授業改善に活用したほか、校長が教員の指導にも利用した。

2 教員の資質・能力の向上について

達成度 B

月一回以上の定期的な研修会は定着し、内容の充実も図られてきている。しかし、職員の資質・能力の向上は、これでよいということではなく、引き続き、資質の向上に向けては不断の努力を続けなくてはならない。今後は自主的な研修ができる仕掛け作りと職歴に応じた体制の構築に向けて一層取り組みを進めたい。

(1) 授業を第一に、指導と評価の一体化を図るため、授業改善には不断の努力で取り組む。

新たな教育システムの共通理解を図るべく、授業及び評価に係る研修を多く実施して、日々授業改善に取り組む機運を醸成した。定例の研修会においても、授業改善のテーマを数多く準備し、実践するとともに職員同士の互見授業を推奨した。石川一郎理事には、定期的に来校いただき、授業改善のご指導いただいた他、各教科カリキュラム改善指導も行っていただいた。

(2) 生徒の観察に努め、きめ細やかな指導と速やかな対応をとる。

複数教員によるHRの実施や定期的な面談の実施による日常的アセスメントのもと、学年会での情報共有、ケース会議を経て、SCやSSWrとの連携や学習支援員を授業に於いて活用して、きめ細やかで速やかに対応した。

(3) 教員免許更新制度に代わる新たな研修制度を構築し、定例の研修会を充実させる。

職員会議時に行う定例の研修会は定着し、内容も充実している。いつでもオンデマンドで研修できるFind!アクティブラーナーの活用も推奨しており、自分の職歴にあった研修を提案している。一層計画的研修体制の構築に取り組みたい。

(4) 人事評価制度を活用し、職歴に応じて自己啓発に努める環境を整える。

トライアルも3年目を迎、自己申告シートの提出は定着した。計画通りに面接を重ね、職員との相互理解に努めた。職員はシートの提出により、考える機会を得て、自己啓発に努めるいい機会となっている。次年度は実効性あるもとなる事から、より慎重に進めていきたい。

(5) 校内・校外での必要な研修への参加を促し、成果を伝達して共有する。

私学協会主催の研修会には積極的参加を促した他、希望による校外研修への参加も極力認めた。研修後は、研修内容の共有を図ったほか、先進校視察については、職員会議で報告を行い情報について共有した。

(6) コンプライアンス（法令遵守）を推進するとともに、働き方改革にも取り組む。

新校舎の活用時にスクールセンター（職員室）をフリーアドレスとした。完全なフリーアドレスとはいかないが、条件により一定の固定期間を決めての座席となり、新たな働き方改革にチャレンジしている。コンプライアンスについては、毎月の職員会議等で校長からの講話を実施し、具体例を話して法令遵守に努めた。

3 連携強化について（系列校、地域社会、関係機関）

達成度 B

新型コロナ感染症が5類扱いとなり、様々な連携が従前通りに開催できるようになった。北上市と学園が「まちなかキャンパスにおける人材育成に関する連携協定」を締結し、今まで以上の強い結びつきで様々な連携が模索できる体制が整った。系列校との連携も新たな取り組みがスタートできたが一層の工夫により連携を強化していきたい。

(1) 系列校との連携・交流により、上級学校への進学の動機付けと意欲を育てる。

◇専修大学高大連携

- ①専修大学・系列学校合同説明会（6月）
 - ②首都圏大学見学会（10月）
 - ③専修大学フェスティバル参加（10月）
 - ④専修大学エクステンションセンター主催模擬法廷参加（11月）
 - ⑤本校教員見学会（3月）
 - ⑥「ニュース専修」生徒・保護者・教職員配信（随時）
- ◇専修大学・系列学校合同説明会
- ①専修系列説明会（6月）
 - ②専修大学先輩と語る会（リモートで実施）（8月）
 - ③専修大学フェスティバル（10月）
- ◇北上福祉教育専門学校との連携事業
- ①高専連携会議（5月実施）
 - ②学校説明会（生徒向け）（6月実施）
 - ③新任教員向け学校説明会（6月実施）
 - ④保育・福祉介護系ガイダンス（3月実施）

(2) 高大・高専・高幼連携事業を通して、特色ある学びを充実させ、豊な心の育成を行う。

◇石巻専修大学高大連携接続科目授業

普通科 DL 学問探究専攻 2年 61名受講 受講回数 11回

他の連携 ①石巻専修大学 グローカルビジネス科1・2年対象 130名（5/9実施）

「簿記」講話 平澤 哲 氏

②石巻専修大学で講義受講とゼミナール参加 普通科含む49名参加
(グローカルビジネス科2年生=簿記グレード上位者25名、普通科24名)

③連携出前授業 自動車科1年生石巻専修大学 川島純一郎教授

「自動車の未来・エンジンの将来」（2月）

④高大連携実習 自動車科2年生（10月）

⑤連携出前授業 グローカルビジネス科1年生 石巻専修大学 田村真介准教授
「出づるを制して入るを量る」（簿記）（2月）

⑥連携出前授業（春の集中講座）（3/20～23）

石巻専修大学 平澤 哲 氏

⑦北上幼稚園食育交流（4回実施=6月／11月）

⑧北上幼稚園児との英会話教室

（5～3月 年長・年中クラス各6回、年少クラス4回 計16回）

⑨北上幼稚園とのサッカー教室（5～6月 計4回実施）

(3) 北上市との提携による、地域社会・関係機関との連携を通して、人材育成に努める。

北上市と学園が結んだ「まちなかキャンパスにおける人材育成に関する連携協定」のもと、具体的な教育活動における連携を模索するとともに市事業ワークショップへの参画や市主催事業への司会派遣の他、美術部による「北上いこう（行こう遺構）マップ」作成を行うなど、連携を取って種々活動した。

(4) SVきたかみとの連携により部活動改革・働き方改革に繋がる取り組みにする。

SVきたかみと学内部活動との連携の中で、活動を広げるとともに種目数増に務めた他、地域に貢献する新しい形を模索した。教員の働き方改革に繋がる取り組みになるべく今後も発展させていきたい。

4 広報活動の強化について

達成度 B

HP・SNSの充実に努めたが、まだまだスピード感と業者頼みの部分が改善されていない。引き続き充実を図るために専門的知識と活用を模索しながら、適切な時期に適切な情報の発信を図りたい。入試やOSをはじめ各種申し込みもWEBから行い、だいぶ定着してきたが、さらに適切に運用できるように努めていきたい。

(1) 中学生・中学生の保護者・中学校及び学習塾等への様々な広報活動を展開する。

- ①中学校との引きつき・情報交換（メール）
- ②相談会（3回実施=45名／プレゼン対策14名）
- ③中学校高校説明会へ参加30校（前年より3校増）、入試事務説明会（11月実施）6校
- ④和賀地区中学校進路指導研究会（中学校教諭対象）講師として派遣
- ⑤夏の特別企画『親子で考える高校入試』（10月実施：学習塾主催）へ参加
- ⑥学校案内パンフレット（カラー30ページ=6500部作製）
- ⑦生徒募集要項3000部作製

(2) HP・SNSの充実に努め、教育内容及び実践活動内容を広く世間に知らせる。

ホームページの運用については、業者の選定も含めて進んでおらず、教員の技術では限界があり、今後も業者頼みの部分の改善について検討していきたい。様々なSNSの発信については部活動等で積極的に発信しているが、組織的な情報発信については、今後も課題である。より多くの人に見ていただけるように工夫して情報発信していきたい。

(3) ボランティア活動等に積極的に取り組み、地域への貢献と広報の役割を果たす。

教頭を窓口に地域各所からのボランティア要請には、全校に呼びかけながらできるだけ応えた。部活動単位でも様々なボランティア活動への取り組みを推奨しており、今後も地域貢献と広報の役割を果たすべく一層の活動の活発化に努めたい。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 B

校舎の建設工事と並行しての教育活動実践であったが、無事に新校舎の落成・供用を迎えることが出来た。生徒・職員を始め、工事関係者の皆さまの多大なご尽力の賜と感謝したい。また、大きな学校事故やいじめの重大事態に繋がる事案はないが、生徒の安全・安心については、不断の努力で臨みたい。いじめや各種トラブルについては、速やかで組織的な対応を心がけたが、今以上に早期発見・早期解決を図るように努めたい。

(1) 校舎建て替え工事期間の安全管理の徹底と日常の安全教育の充実を図る。

設計・施工と定例打ち合わせを密に行い、情報共有と生徒の安全な動線確保に努め、校舎建て替え期間中の安全に十分配慮した。また、日常の安全計画・危機管理マニュアル・防災マニュアルを徹底しながら、避難訓練を実施することで、安全教育を充実させた。

(2) 自他の命を大切にし、生徒一人ひとりが相互に尊重しあう姿勢の醸成を図る。

スクールカウンセラーによる、グループエンカウンターを担任・学年団の協力により実施することで、クラスの集団作り・相互理解が深まった。全校ガイダンスや日々のホームルームを通じた指導により、互いを尊重する人間関係作りに努めた。

(3) いじめや体罰・暴言の未然防止と生活実態調査に基づく適切な対応に努める。

いじめ・生活アンケートを年3回の実施し、いじめの早期発見、早期解決に努めた。いじめ事案に対しては、組織的に対応することで大事には至っていない。

6 校舎建て替え事業に際し、安全な新校舎の建築・移転を推進し、新校舎を活かした、より充実した教育活動を実践します。また、通信制課程開校に向けた具体的検討を進めます。

達成度 A

工事中の安全確保に向けて、施行業者と十分な打ち合わせを定期的に実施する中で、生徒・職員に対し適切に情報提供し安全が保たれた。当然であるが、協力を得ながら、事故なく工事が行われている。避難訓練も消防署の指導を受けながら実施し、不測の事態に備えた。通信制課程開校に向けては、県学事振興課に設置計画書提出し、県私立学校審議会にて設置計画が了承された。

7 スポーツ・文化・学術の主な活動・成果

(1) 硬式野球部	全国高校野球選手権岩手県大会 岩手国体記念一年生大会	ベスト8 準優勝
(2) 軟式野球部	県高校総体県大会 東北地区高校軟式野球東東北大会 (2年連続6度目全国大会出場 ベスト8) 鹿児島国体出場 ベスト8 全国高等学校野球選手権岩手県大会 県高校新人大会	優勝(8大会連続19度目) 優勝(2年連続7度目) 鹿児島国体出場 ベスト8 優勝(3年連続23度目) 優勝(2年ぶり24回目)
(3) 卓球部	県高校総体県大会(男子団体) (女子団体) 県高校新人大会(男子団体)	優勝(11大会連続28度目) 準優勝 優勝(20年連続37度目)
(4) 陸上部	東北選抜大会2位 ※全国選抜大会出場 高総体 男子1500m・5000m 女子200m 県新人 男子1500m・5000m 県新人 女子100m・200m 県新人 女子400mh	2位 3位 3位(東北1500m3位) 3位 2位(東北3位)
(5) 体操部	県高校総体県大会(男子団体) 県新人戦男子団体総合	準優勝 優勝(2年ぶり29回目)
(6) サッカーチーム	県高校総体(男子) 県選手権大会(男子) 県新人大会(男子) 県高校総体(女子) 全国高校総合体育大会(女子) 県選手権大会(女子) 高校女子選手権大会県大会(女子) 県新人大会(女子)	準優勝 準優勝 準優勝 優勝(10大会連続10度目) ベスト8 優勝(7年連続9度目) 優勝(11年連続11度目) 優勝(6年連続9度目)
(7) バレーボール部	県私学大会	準優勝(全国私学大会出場)
(8) バドミントン部	県高校総体(男子)	3位
(9) 柔道部	高総体 男子個人73kg級	東北大会出場
(10) 吹奏楽部	全日本吹奏楽コンクール岩手県大会 東北吹奏楽コンクール 全国マーチングコンテスト東北大会 全国マーチングバンド・バトルワーリング東北大会 全国地域安全モデルポスター	金賞 銀賞 金賞 金賞 ※3年連続16度目 「最優秀賞」「優秀賞」
(11) 美術部	北上市明るい選挙啓発ポスターコンクール	「優秀賞」
(12) 生徒会	生徒会誌コンクール	最優秀賞(3年連続3度目)

令和5年度 学校評価アンケート集計結果（高等学校）

1 実施時期

1月19日(金) 保護者向け依頼文書を配布、B L E N Dで保護者へ依頼

1月19日(金)

～2月2日(金) 保護者がB L E N Dで回答

B L E N Dで集計結果公表

2 集計結果

各質問の回答を、以下の数に変換して平均しています。

そう思う→5 やや思う→4 どちらともいえない→3 あまり思わない→2 思わない→1

内容	質問項目	R4保護者	R5保護者	R4教職員	R5教職員
教育活動全般	生徒・保護者に「建学の精神」がよく理解されている。	3.44	3.15	2.84	3.08
	本校は、生徒会活動や学校行事が充実している。	3.91	3.59	3.73	3.90
	本校は、生徒の安全・健康に配慮している。	3.65	3.47	3.57	3.95
	教職員は、公平・公正に生徒と接している。	3.62	3.41	3.35	3.74
	いじめ問題への対応は適切になされていると思う。	3.41	3.20	3.78	4.15
進路指導	専大北上高校の教育活動に満足している。	3.77	3.51	3.19	3.56
	教育課程や科のコースは、生徒の進路や適性を考えたものとなっている。	3.84	3.59	3.62	3.56
	進路指導において、資料や情報が行き届いている。	3.66	3.37	3.57	3.92
	生徒は、学習方法や学習内容が身についてきている。	3.36	3.19	2.68	3.05
環境教育	生徒は、家庭で学習や課題に取り組んでいる。	3.16	3.08	1.89	2.49
	校舎・施設等は整備され、教育環境が整っている。	3.18	3.70	2.03	4.00
活動報	校舎内外の清掃・美化は、行き届いている。	3.37	3.56	2.32	3.33
	ホームページやメール、文書等での情報提供は充実している。	4.07	3.71	3.92	3.82
PTA外活動	地域や中学生に対して、積極的に広報活動が行われている。	3.46	3.42	3.86	4.18
	本校の部活動、課外活動は、活発に行われている。	3.94	3.89	4.08	4.49
	子どもの所属している部の活動は充実している。	3.78	3.62	3.89	4.13
	PTA活動は、活発で円滑に行われている。	3.60	3.36	3.62	3.77
	PTA行事は、参加しやすい日時、内容になっている。	3.48	3.28	3.65	3.77

回答数 357 379

回答率 47.5% 48.3%

3 回答内容について

昨年度より若干回答数は上がりましたが、半数を超えていません。もっと回答していただけるよう工夫していきたいと思います。B L E N Dにより回答いただいているが、アプリの不具合により、5が1に4が2と回答になるという指摘もいただいております。不具合については検証中ですが不確実な数字になっていることをお詫び申し上げます。結果内容については、その影響か多くの項目で昨年度より評価が下がっていますが、引き続き全ての項目について努力し、次年度は数値が向上できるように努めて参ります。自由記述につきましても、多くの感謝のお言葉と激励を賜り、心から御礼申し上げます。また、改善が必要な部分に対しましてもご意見を頂戴しております。そのご意見に対しても真摯に耳を傾け改善を図って参りますので、今後ともご理解とご協力の程お願ひいたします。これからも生徒一人ひとりを大切にし、夢や希望の実現に向かって邁進できるよう、日々の教育活動をより一層充実させるべく努力して参ります。(校長)

専修大学北上高等学校

1. 学科名

普通科・グローカルビジネス科(商業科)・自動車科

2. 学年・学科別在校生徒数

令和5年5月1日現在

	学 科	入学定員	男 子	女 子	計
1 年	普通科	185	107	86	193
	グローカルビジネス科	80	34	45	79
	自動車科	35	30	0	30
	小 計	300	171	131	302
2 年	普通科	185	88	96	184
	グローカルビジネス科	80	21	31	52
	自動車科	35	18	0	18
	小 計	300	127	127	254
3 年	普通科	185	87	73	160
	商業科	80	37	34	71
	自動車科	35	19	1	20
	小 計	300	143	108	251
	合 計	900	441	366	807

3. 進学・就職の状況（令和6年3月31日現在の進路状況）

(1) 進学状況 193 (男子110・女子83)

()は女子内数

区分	学科	普通科	商業科	自動車科	計
大学		97 (30)	21 (5)	3 (0)	121 (35)
短期大学		8 (8)	1 (1)	1 (1)	10 (10)
専修学校		41 (29)	14 (8)	3 (0)	58 (37)
未 定		4 (1)	0 (0)	0 (0)	4 (1)
合 計		150 (68)	36 (14)	7 (1)	193 (83)

(2) 産業別就職状況 56 (男子33・女子23)

()は女子内数

区分	学科	普通科	商業科	自動車科	計
農林漁業	県内				
	県外				
建設業	県内		2	1	3
	県外				
製造業	県内	6 (3)	20 (10)	6	32 (13)
	県外				
電気ガス業	県内		1		1
	県外				
情報通信業	県内				
	県外		1 (1)		1 (1)
運輸郵便業	県内			2	2
	県外			1	1
卸売・小売業	県内		1 (1)	2	3 (1)
	県外				
金融保険	県内		1 (1)		1 (1)
	県外				
不動産業	県内				
	県外	1			1
宿泊・飲食業	県内			1	1
	県外		2 (2)		2 (2)
生活関連、娯楽業	県内		1 (1)		1 (1)
	県外				
専門・技術サービス業	県内				
	県外				
医療福祉	県内		2 (2)		2 (2)
	県外				
複合サービス業	県内				
	県外				
サービス業	県内		1 (1)		1 (1)
	県外		1 (1)		1 (1)
公 務	県内		1		1
	県外	1	1		2
合 計	県内	6 (3)	30 (16)	12 (0)	48 (19)
	県外	2 (0)	5 (4)	1 (0)	8 (4)
	合計	8 (3)	35 (20)	13 (0)	56 (23)

令和5年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【北上福祉教育専門学校】

入学定員（90名）の充足を図り、社会の発展に貢献する実践的な専門職業人を育てる。

保 育 科	38名入学	（定員50名に対し 76.0%）
福祉介護科	20名入学	（定員40名に対し 50.0%）
合 計	58名入学	（定員90名に対し 64.4%）

1. 教育内容の充実について

達成度A

コロナも落ち着き、対面での演習、ディスカッション等活発な本来の授業を取り戻してきた。実習等対外的な教育活動も、大きな変更無く行うことが出来た。

また、介護福祉士国家試験合格率は100%には達しなかったものの、全国平均を上回り、就職率も100%を達成した。

（1）ICTを活用した効果的な授業運営に努める。

石巻専修大学との遠隔授業の他、平常授業でもICT活用の拡大がみられている。

（2）学生による授業評価を実施し、授業の質的向上に努める。

前期、後期の年2回、科目ごとに、学生アンケートによる授業評価を実施後、評価結果を集計し授業内容の質的向上に努めた。

（3）実習指導者会議を行い、実習指導者と連携した実習プログラムの開発を行う。

全ての実習指導者会議の開催まではいかなかつたが、対面開催が出来なかつた場合は、書面において実習プログラムを確認し、実習指導について共通理解を深めた。

（4）2年間の実習実践内容を総括し「実習実践研究収録」を作成する。

保育科「実習報告集」、福祉介護科「介護事例研究発表会報告集」を作成した。

（5）介護福祉士国家試験合格率100%に向け、対策講座を推進する。

国家試験対策講座は時間割に位置づけ、模擬試験を増やすなど強化した。

本校合格率は92.6%（全国平均82.8%、養成校平均71.5%）

受験者27名（日本人26名、留学生1名）、合格者25名（日本人24名、留学生1名）であった。

（6）学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を開催し、教育の質的向上に努める。

・学校関係者評価委員会を2回開催し、専任講師・職員への自己評価と、非常勤講師、保護者、学生、同窓生、実習施設へのアンケート調査による学校評価の内容を検討し、実施後はアンケート結果の振り返りを行った。

・教育課程編成委員会を毎年2回開催し、現在のカリキュラムの確認と今年度の振り返り、今後の方向性について検討した。

（7）丁寧な就職指導とキャリア教育の充実により就職率100%を維持する。

・キャリアコンサルタントによるキャリア講義を両科両学年各5回ずつ実施した。
・両科とも、就職希望者全員が就職した。（100%）

2. 教員の資質・能力の向上について

達成度B

人事評価制度を試行的に導入して3年目、教員個々の自己啓発に繋げることが出来ている。また、研究会・研修会・学会等は、現地開催が増えたものの、オンライン等でも手軽に参加出来た。

学内での教員研修会の他、学外での研修会については学内で概ね共有することが出来た。

(1) 学内での教員研修会を開催し、一堂で教科指導、学生指導、専門士養成の研修を行う。

専任・非常勤講師一堂を会して開催することが出来た。資料を基に全体研修、科別研修を行った。また、専任のみではあるが、長期休みに学内研修会を計2回行った。

(2) 広く社会に貢献できる人材育成のため、研究会・研修会・学会等へ計画的に参加する。

保育科	日本保育学会 第76回大会（オンライン）	2名参加
	全国保育士養成協議会セミナー、研究大会（オンライン）	6名参加
	全国保育士養成協議会東北ブロックセミナー	1名参加
	全国保育士養成協議会東北ブロック研究会（オンライン他）	16回参加
福祉介護科	日本介護福祉士養成施設協会全国教職員研修会（オンライン）	3名参加
その他	全国専修学校各種学校総連合会東北ブロック研修会（盛岡市）	3名参加
	岩手県専修学校各種学校連合会研修会（盛岡市）	3名参加

(3) 授業力の向上に向け、公開授業を実施する。

公開授業週間を前期後期各一回ずつ設定し、専任講師（一部非常勤講師）の授業を公開した。授業内容・教育方法の感想や気付いた点について担当教員に伝えることで、授業実践の向上に繋がった。

(4) 実践及び研究の発表の場として、研究紀要の隔年発行を基本に取り組む。

令和5年3月に研究紀要第7号を発行し、国立国会図書館、全国幼稚園教員養成機関連合会や関係大学に配布した。

3. 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度B

コロナが落ち着き、昨年度より連携をとることが出来た。こども園とは、実習時期の変更（2年次→1年次）に向け連携を深めつつ、実習以外の行事でも楽しく行き来し交流した。石巻専修大学への編入学者は無かったものの、講義の他、教育課程編成委員会に参加して頂いた。また、地域のイベント参加も増え、夢のキラキラ音楽会・介護事例研究発表会を成功に収めることが出来た。北上高校からの入学者は5名と昨年度を大きく下回った。

(1) 北上高校との高専連絡会議を設け、本校への進学20名を目指す。

高専連絡会議開催は1回にのみとなった。新任教員研修、保育・福祉系進学ガイダンス、1年生全員対象ガイダンス、保護者向けガイダンスを実施した。

介護労働安定センター岩手支部、岩手日報者主催の介護福祉士主演映画「ケアン」上映会を紹介し、北上高校1年生全員を見て頂き、介護福祉士の仕事理解に繋がった。

本校へは5名（保育4、福祉1）が入学、うち奨学生（推薦合格）は2名であった。

(2) 同敷地内のこども園で、学生が日常的に見学・参加実習する等多くの交流を目指す。

1年生の園見学、プレ実習の他、学園祭、ハロウィンイベントで交流した。

(3) 保育科指導大学となる石巻専修大学とより連携を深めていく。

理工学部教授依田清胤先生には「自然科学概論」を、人間学部教授高橋寛人先生、新福悦郎先生には「教育制度論」及び教育課程編成委員をお引き受け頂きご指導頂いた。

今年度より保育科指導大学をお引き受け頂き、文部科学省による教員養成機関の指定は無事更新された。5年度の編入学は無かった。

(4) SDGs実現に向け、北上市と連携を強化して保育・介護の啓蒙及び人材育成を行う。

(地域のイベント・ボランティアへの積極的参加、出前、公開講座の開催等)

① 地域のイベント（北上みちのく芸能まつり等）

4年ぶりの通常開催である北上みちのく芸能まつり市民パレードに全員が参加し、優秀賞を頂いた。

② 各種ボランティア活動（県特別支援学校スポーツ交流会、北上ふれあいスポーツ大会等）

県特別支援学校スポーツ交流会には福祉介護科全員が、北上ふれあいスポーツ大会には福祉介護科2年生が参加した。保育科においては、子育て支援団体のイベントに10名が参加した。

③ 北上市出前講座の登録と実施（中高生・一般向け）

「北上市生涯学習まちづくり出前講座」に2講座登録したが、依頼は無かった。

④ 学園祭の開催

学園祭は、4年ぶりの通常開催とし、一般公開して行った。（入場者283名）

⑤ 黒沢尻8区ふれあいデイサービス「ひまわり会」とニュースポーツでの交流を行った。

⑥ 放課後等ディサービスニュースポーツ交流会を本校で2回実施し、福祉介護科1, 2年生全員と保育科数名が参加した。

⑦ 介護ロボット体験会を実施し、福祉介護科学生の他、地域の介護従事者等が参加した。

⑧ 認知症サポートステップアップ研修（福祉介護科2年生）、認知症サポート養成講座（福祉介護科1年生）を開催した。

⑨ NHK介護100人一首へ福祉介護科1, 2年生全員が応募した。

⑩ 花巻年金事務所年金セミナーを開催し、福祉介護科2年生全員が参加した。

(5) 実習施設等と連携し、行事への積極的参加や協力を実行する。

実習施設の行事（幼稚園・保育園・障害者施設・介護老人福祉施設等）への要請が少しずつ増え、参加することが出来た。（保育科1カ所3名、福祉介護科5カ所23名）

(6) 実習先の園児や先生方、保護者を招待して保育科「夢のキラキラ音楽会」を開催。

11月10日、さくらホールで開催され、北上幼稚園3～5歳児他15園651名、保護者122名、合計773名に見て頂いた。

(7) 実習先の先生方、保護者、卒業生を招待して福祉介護科「介護事例研究発表会」を開催。

12月14日、さくらホールで開催され、福祉介護科学生、保護者、実習指導者、卒業生、教員を含め合計84名が参加した。教育課程編成委員の先生に講評を頂き、内容の濃い発表会となった。

4. 広報活動の強化について

達成度C

教職員が一丸となり、高校訪問、進路ガイダンス等の広報活動を行った。ホームページもリニューアルし見やすくしたが、両科共に、新卒者、委託訓練生どちらの数も伸びず、定員に達することが出来なかった。

(1) WEB広報（HP、X、インスタ等）を強化し、戦略の転換を図る。

X、インスタの更新は1日おきに行なった。ホームページは5年度にリニューアルした。

(2) 報道機関へ情報提供し、メディアの積極的活用を図る。

入学式、卒業式、オープンキャンパス、夢のキラキラ音楽会、介護事例研究発表会等、全ての学校行事の取材案内を市内11ヶ所の報道機関に送付した。

(3) 業者主催進学説明会、相談会へ積極的に参加する。

業者主催の進学説明会に83回参加した(昨年度74回)。遠方等により31カ所は参加できなかった

(4) 同窓会、後援会と連携し、広報活動の展開を図る。

同窓会総会を本校で実施し、協力依頼をした。HP等でも呼びかけ「同窓生推薦受験生の受験料免除制度」に同窓生より25名の推薦があった。(昨年度は30名)また、後援会役員会・総会・研修会を開催し、本校PRの協力依頼を行った。

(5) 学生募集要項及び学校案内等の充実、作成を計画的に行い、早期完成を目指す。

学校案内は、保護者や高校生が読みやすいデザインに変更し4月下旬に完成した。

(6) 高校教員向けに学校説明会を開催し、高校教員への周知を図る。

6月19日に開催。7校7名が参加し、説明後在校生と懇談した。

(7) 全教員による県内外の高校への訪問(年3回)、出前講座を実施する。

- 岩手県、秋田県、宮城県の高校を1~3回(延べ221校)教員全員で訪問した。
- 出前講座は、花北青雲、平館、宮古定期制、花巻農業、紫波総合高校で実施した。

(8) オープンキャンパス参加への積極的PR、学校見学の随時開催を行う。

- ①オープンキャンパスは年15回開催、総参加者116名(昨年157名)
- ②学校見学 岩谷堂高校 32名 紫波総合高校 11名 住田高校 7名

(9) ハローワークと連携し、社会人への募集活動の推進を図る。

- 委託訓練事業(保育士養成コース、介護福祉士養成コース)へ応募し、ハローワークと共同で説明会を1回実施した。
- ハローワーク(奥州市、北上市、花巻市、一関市、盛岡市、遠野市)に対し、電話で学校説明し募集活動を行った。

(10) 外国人留学生の募集活動を推進し、受け入れ体制の整備を図る。

- 留学フェア(仙台市 年1回)に参加した。
- 仙台の日本語学校を対象とした現地説明会を1回実施した。
- 留学生対象の見学会1回(2名参加)、外国人(企業)対象の説明会を2回開催した。

(11) 学生募集強化委員会を月2回開催し、スピード感をもって学生募集活動を行う。

毎月1回以上、学生募集強化委員会(校長、科長、入試広報部長)を開催し、広報活動の企画・運営・評価を実施し、学生募集の強化を図った。

5. 安心・安全な環境整備について

(1) 校舎の老朽化、授業のICT化に伴う環境整備を計画的に実施する。

(壁塗装等修繕、第1体育館解体、第2体育館修繕、教室の大型スクリーン・遮光カーテンの設置等)

達成度A

第2体育館の修繕、第1体育館の引越、解体は年度内に終了した。教室の大型スクリーン、遮光カーテンの設置も行い、安心・安全な環境整備を進めることができた。
また、高等学校旧校舎から学生用机・椅子・教卓等を運び入れ、予定以上に整備された。

6. その他

(1) 令和6年度に迎える60周年の実行委員会を発足する。

達成度B

60周年実行委員会を発足し、毎月の定例職員会議で進捗状況を確認している。

令和5年度 学校評価（学校関係者）アンケート結果

評価(適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

評価項目			評価平均						昨年度全体 136名
			学生 168名	学生保護者 133名	実習施設 28名	同窓会役員 5名	非常勤講師 6名	全体 340名	
1 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか		3.7	3.6	3.7	3.4	4.0	3.6	3.7
2 学校運営	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか		3.7	3.5	3.7	4.0	3.7	3.6	3.6
3 教育活動	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか		3.7	3.6	3.8	3.7	3.7	3.6	3.6
4 教育活動	関係施設等と連携による実践的な職業教育(実習等)が行われているか		3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.7	3.6
5 学修成果	就職率の向上が図られているか		3.7	3.5	3.7	3.8	3.8	3.6	3.6
6 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか		3.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.6	3.6
7 学生支援	学生相談に関する体制は整備されているか		3.6	3.5	3.5	3.8	4.0	3.6	3.5
8 学生支援	保護者と適切に連携しているか		3.5	3.2	3.4	3.6	3.8	3.4	3.4
9 学生支援	卒業生への支援体制はあるか		3.6	3.3	3.4	3.8	3.5	3.5	3.4
10 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか		3.6	3.4	3.6	4.0	2.7	3.5	3.5
11 学生の受け入れ募集	学納金は妥当なものとなっているか		3.6	3.3	3.5	4.0	3.8	3.5	3.5
12 法令等の遵守	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか		3.7	3.5	3.7	4.0	3.5	3.6	3.6
13 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか		3.6	3.5	3.6	3.8	4.0	3.6	3.5
14 社会貢献・地域貢献	学生のボランティア活動を奨励しているか		3.7	3.4	3.6	3.8	3.8	3.5	3.4
15 社会貢献・地域貢献	公開講座・教育訓練(公共職業訓練等)の受託等を積極的に実施しているか		3.7	3.5	3.7	3.8	3.6	3.6	3.5

1 調査時期	令和5年12月15日(金)～令和6年1月12日(金)	
2 調査対象	学生、学生の保護者（職業訓練生、留学生を除く）、実習施設等（幼稚園、保育所、高齢者施設等）、同窓会役員、非常勤講師	
3 依頼方法	アンケート調査用紙を手渡しもしくは郵送により依頼し、回収した。 保護者については、学生を通して担任が依頼、回収した。	
4 回収率	全体	89.50% (依頼数380 回収数340)
	学生	100.00% (依頼数168 回収数168)
	学生の保護者	86.40% (依頼数154 回収数133)
	実習施設等	93.30% (依頼数 30 回収数 28)
	同窓会役員	38.50% (依頼数 13 回収数 5)
	非常勤講師	40.00% (依頼数 15 回収数 6)
5 有効回答数	340	

専修大学北上福祉教育専門学校

1. 学科名

保育科・福祉介護科

2. 学年・学科別在学生数

(令和5年5月1日現在)

	学 科	入学定員	男 子	女 子	計
1 年	保 育 科	50	5	58	63
	福 祉 介 護 科	40	12	23	35
	小 計	90	17	81	98
2 年	保 育 科	50	4	44	48
	福 祉 介 護 科	40	4	24	28
	小 計	90	8	68	76
	合 計	180	25	149	174

3. 就職等の状況

(1) 就職者数

(令和6年3月31日現在)

	保育科	福祉介護科	計
就 職 決 定 者	42	26	68
就 職 未 定 者	0	0	0
合 計	42	26	68

(2) 就職先の内訳

(令和6年3月31日現在)

	保育科	福祉介護科	計
幼 稚 園	1		1
保 育 園	30		30
認 定 こ も 園	6		6
特 別 養 護 老 人 ホ ー ム		18	18
介 護 老 人 保 健 施 設		3	3
福 祉 施 設 他	5	5	10
合 計	42	26	68

4. 入学試験状況

(令和6年3月31日現在)

学 科	志 願 者 数			入学手続者数		
	男 子	女 子	計	男 子	女 子	計
保 育 科	7	31	38	7	31	38
福祉介護科	10	10	20	10	10	20
合 計	17	41	58	17	41	58

令和5年度事業（教育活動）計画に基づいた報告

【認定こども園専修大学北上幼稚園】

教育目標（げんきなこども　おもいやりのあるこども　みんなのしくあそべるようちえん）を具現化し達成していく。

1 教育内容の充実について

達成度 A

- ・アクティブラーニングを取り入れた保育実践や公開保育を行った。園児の思考力や判断力、表現力を高める指導の在り方について研究を深めることができた。
- ・研究や生活指導の成果として、日頃の保育や活動のみならず、発表会などの行事においても、保護者及び参会者から好意的な評価を受けることができた。更なる指導の充実を図っていきたい。

（1）教育課程にアクティブラーニングを取り入れ、「主体的な」「対話的で」を通して深い学びを目指す。

主体的については、「自分からやろうとすることでそこに見通しを持ち、遊びをふりかえる」ことであるが、これを遊びの中で繰り広げていく。対話については、自分以外の誰かの考えを取り込みながら、自分もまた考えを出すことである。深い学びは子どもたちの考える力を育むために、できる、気づくだけでなく「なぜ」、「どうやって」が入る活動を今後は考えていきたい。

（2）支援を要する園児への保育の充実を図る。

特別支援コーディネーターを中心に北上市療育センター等の関係機関との連携を図り、担任が子どもに合った保育をするように努力している。必要に応じて、保護者が園に来て子どもの様子を見てももらうようにした。支援を要する子の困り感を的確に捉え、家の方との早期段階での共通理解が必要である。

（3）毎日の「反省会」による保育の省察を行い、ヒヤリハット報告、検討を行う。

ヒヤリハットは、年々少なくなってきている。担任は、ヒヤリハットについて当事者意識を持ち始めているからだと思われる。

（4）園内研修のテーマは0～3歳「環境構成」、4～5歳は「主体的な遊び」とし、レポート発表を実施する。また1号認定園児長期休業中の研修会を持ち教師間（教育部と保育部）のコミュニケーションを図る。

実践例（日案）作成を通して、立案や振り返り等、担任の保育の改善・向上を図っている。職員で共有するために、反省会で事例発表をした。

（5）学校評価を実施し、結果を教職員で共有し、園経営の改善を図る。

職員全体で学校評価を振り返り、保護者の思いに寄り添いながら、園経営の改善を図っている。

2 教員の資質・能力向上について

達成度 B

- ・自己の教育力を向上させるため、研修会等に計画的に参加することができた。
- ・研修会においては、積極的に発言するなど、意欲的な参加態度であった。

これは個々の職員が自己研鑽の必要性を十分に理解していることの表れであり成果として捉えている。

- ・職員の資質及び能力の向上は、園児の楽しく充実した園生活に不可欠である。

優れた実践に学ぶ姿勢や、互いに切磋琢磨できる環境づくりに努めていきたい。

- (1) 専修大学の建学の精神をもとに、感謝と社会に貢献する心を持つ教員を養成する。
折に触れ管理職が職員に指導、助言を行うことで、職員の意識が徐々に変わってきている。しかし、今後も基本的なことなど含めて指導が必要である。職員一人一人が理解し振り返りながら保育していきたい。
- (2) 知識や技能を有し、いろいろな引き出しがある教員を養成する。
アクティブラーニングを保育に積極的に取り入れたことで、職員間でも他のクラスの様子も知ることができ、刺激を得ることで一人一人創意工夫している様子が見られた。さらに、研修会にも参加し、今後の保育に生かせるようにしたい。
- (3) 適材適所を見極め職務整理と組織作りに務め、職務に専念し効率的・迅速的に行う習慣をつける。
今年度の組織は、適材適所という考え方の組織であった。効率・迅速的という部分では難しいところもあったので、今後時間の使い方や考え方を振り返り考えていこうと思う。
- (4) 本園事務部と専門学校事務部と学園事務局の連携の強化を図る。
3校の事務部の連携はよく取れていた。
- (5) 園外研修の積極的参加
①年間研修計画を作成・実施し、キャリアアップ研修も参加する。
②公開保育研究会に参加する。
優れた実践に学ぶ姿勢や、互いに切磋琢磨できる環境づくりに努めていきたい。
- (6) 教職員の自己評価の実施を行い、自己評価の結果によりP D C Aサイクルで改善を図る。
学校評価と同じ内容での自己評価を行うことで自分自身の振り返りをすることができた。来年度へ活かしていきたい。
- (7) 学年のミーティング・職員会議による職員のチームワークを醸成する。さらに、職員間の連携強化を図り、互いに信頼し合える職場づくりを目指す。
話し合い、職員会議等職員間のチームワークづくりを心がけた。全員そろって行うことはできなく、内容を全員へ伝えることの難しさがあった。教えてもらう受け身の意識から、自分から知りたいと思える気持ちへの変化も必要である。
- (8) 人事評価により、職員の資質及び能力の向上を図るとともに園の教育力を高める。
人事評価ではどの職員も真剣に考え行動しようとしていたことが伝わってきた。さらに向上心を持って取り組んでいきたい。

3 連携強化について（系列校、地域、関係機関）

達成度 A

- ・教育実習は、指導教官としてのより高い意識を持って指導を行うことができた。
- ・うんどう教室などの各教室は、園児が喜んで参加するなど大きな成果を収めることができた。
- ・職場訪問を計画的に実施し、日頃の感謝を伝えることができた。地域交流については、実施方法など今後の検討が必要である。

- (1) 専門学校の実習指導は職員一人一人が指導教官としての意識を持ち学生指導にあたる。
・指導教官としての意識を持って実習生に向きあう職員がほとんどであった。自分の保育の振り返りをする良い機会と考えて行って欲しい。
・実習生に合わせた指導の仕方も今後さらに必要である。
- (2) 高校・専門学校等との連携による各種教室の実施
①英語教室、サッカー教室、調理実習、お茶会等は、高校生と対話を楽しみながら実施し、子どもの関心・興味の幅を広げる。

- ②うんどう教室は、色々な動きを通して調整力を養う。
- ③高校生による園見学や子どもとの触れ合いを通し、幼児教育に興味を持ってもらうことに努める。
 - ・連携した各教室に、子どもたちは喜んで参加していたと思う。今後も続けて行きたい。
 - ・2、3歳児のうんどう教室は、専門学校の先生が考え、工夫をしてくださり、内容・時間的にも良かった。

(3) 小学校、保育園、老人施設（遊戯を披露）との交流事業を推進する。

幼小保等の交流は、コロナが5類になったことから以前のように行うことができた。
子どもたちにとっても良い経験であったと思う。

(4) 地域の職場（消防署、北上駅、警察署、図書館、医療関係他）を訪問し、日頃の感謝を表す。

職場訪問、子どもの興味にあった場所、お世話になっているところに感謝の気持ちを伝えたり、興味を持ったりする機会となった。

(5) 中学生の体験学習の受け入れ、高校生との交流事業を推進する。

中・高生との交流は子どもたちも喜び、中高生の職業への意識作りの一端になっている。

(6) 北上市復職プログラム研修の受け入れを行う。

5年度は、参加はなかった。

(7) 隣の住民の方々とコミュニケーションを図り、地域活性化の一助になる。

近隣の方とのコミュニケーションは、ご挨拶周りのみで子どもたちとの触れ合いはまだない。今後検討の必要があると思う。

4 広報活動の強化について

達成度 B

- ・園庭開放や未就園児教室、うんどう教室、講演会を延べ40回行うことができた。参加者を確保するため、ホームページや子育て支援の掲示板を利用して参加を募る取り組みを強化したい。
 - ・3歳児においては、定員を確保できなかった。随時、園児募集（満3歳児）を行っており、引き続き定員確保に努めていきたい。

(1) 未就園児への40回の園庭開放を行い、育児や就園への相談にのる等子育て支援の充実を図る。

未就園児への園庭開放や運動教室、未就園児教室を40回行うことができた。園庭開放については、もう少し回数を増やしていくことが地域とのかかわりの部分で必要となると思うので、5月から12月まで、曜日を決めて毎週園庭開放ができるようにしていくことを検討していく。

(2) ホームページでの情報発信とブログでの園生活の様子、行事等の紹介を積極的に報道機関に依頼し、広報活動を行う。

ホームページでの情報発信については、なかなか取り組むことが難しかった。3学期には、豆まき会の様子をホームページに載せることができたので、行事などの節目に掲載するよう努めたい。

5 安心・安全な環境整備について

達成度 A

- ・施設の安全については、生活指導部を中心に毎月確実に点検を行い、子どもの安全確保に努めた。大きな怪我もなく過ごすことができた。
- ・避難訓練は、いろいろな場合を想定し毎月実施した。毎回記録を提出してもらい、振り返りをした。
- ・バス運行のチェックシートを作り、安全に関する万全の態勢づくりに努めた。

(1) 月1回安全点検を行い園内外の安全を図る。また、毎日、バス運行のチェック体制を整える。

月1回の安全点検は、生活指導部を中心にしっかりと行うことができた。チェックして不具合のある場所は、担当者に直してもらえるところと業者に頼むところと確認して修繕してもらうことができた。また、バスについてもチェック体制をしっかりと行った。

(2) 非常災害時における安全な避難方法（引き渡し含む）を保護者にも周知し行動できるように呼びかけていく。

避難訓練について、月1回火災や地震、引き渡し訓練など行い、反省をしっかりと行うことができ次の訓練に生かすことができた。

6 今後のことども園について

達成度 B

- ・0歳児保育については、初年度ということもあり、十分な配慮を行いながらの保育であったが、概ね順調に経過しているものと捉えている。
- ・0歳児保育には、実績を積み重ねて、職員体制を整えながら定員増に向けた取り組みを行っていきたい。

(1) 令和5年度は、0歳児受入れ、0歳児の運営計画を実施し改善を図りながら、安全な保育に努める。

0歳児を3名初めて受け入れて、保育体制を整えることができた。安全に気を付けながら保育を行ってきた。

(2) 子育て支援のビジョンを策定（一般型）し、地域に根ざした園づくりに努める。

園庭開放などの際に、子育てに関する相談があり、丁寧に対応するよう努めた。

令和5年度 学校評価に関する保護者アンケート（こども園）

在籍数 196名 提出数 181名 提出率 9.3%

項目	内 容	1 そう思う	2 おおむね そう思う	3 どちらかといえばそ う思わない	4 そう思わ ない	5 無回答
教育・保育方針について	1 園は、教育・保育目標や運営方針を分かりやすく伝えている	77.3%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	2 園は、教育・保育目標や運営方針を子どもたちの育ちに活かしている	69.6%	29.8%	0.0%	0.0%	0.6%
教育・保育内容等について	3 園は、子どもの発達段階や興味・関心に応じた保育を行っている	75.1%	23.7%	0.6%	0.0%	0.6%
	4 園は、外遊びやうんどう教室などを通して楽しく体力作りをしている	80.7%	17.6%	1.7%	0.0%	0.0%
	5 園は、園生活を通して、してはいけないことやルールを守る態度、ふわふわ・ちくちくことばをわかるように指導している	75.6%	22.1%	0.6%	0.0%	1.7%
	6 様々な行事は、子どもたちの様子や成長が分かり、保育の意義（学びや遊びの大切さなど）を知る機会となっている	81.2%	18.2%	0.0%	0.0%	0.6%
	7 園は、園全体で子どもの保育に取り組んでいる	80.7%	19.3%	0.0%	0.0%	0.0%
	8 子どもは、園での生活を楽しみ喜んで通っている	75.1%	23.7%	0.0%	0.6%	0.6%
	9 保育者は一人一人の子どもを理解し、個性に応じた援助をしようと努めている	75.6%	23.2%	0.6%	0.0%	0.6%
	10 保育者は、すすんであいさつを心がけ、子どもに温かい言葉遣いで接している	82.3%	17.1%	0.0%	0.0%	0.6%
	11 保育者は、子どもの目線に立って分かるように話し、子どもの意欲や自信を育てるように声かけや支援に努めている	77.3%	22.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	12 園での子どもの様子は、行事、参観日、園・学年だよりなどを通して知ることができる	71.2%	25.4%	1.7%	0.0%	1.7%
	13 園は、保護者の要望などに対して適切に対応している	71.2%	27.1%	1.7%	0.0%	0.0%
	14 園は、子どもの様子や連絡事項、怪我や病気等への対応を適切に行っている	77.9%	20.4%	1.1%	0.0%	0.6%
安全・環境について	15 園は、子どもの安全で心地よく過ごすための配慮（園内や園庭の安全点検・事故防止・避難訓練等）をし、危機管理や安全対策に努めている	82.8%	16.0%	0.6%	0.0%	0.6%
	16 園は、施設設備（保育室・園庭等）や教育環境の充実に努めている	88.4%	11.0%	0.6%	0.0%	0.0%
	17 園は、清掃や整理整頓が行き届いている	87.8%	12.2%	0.0%	0.0%	0.0%
	18 園は、個人情報の取り扱いに十分注意している	80.7%	17.1%	0.0%	0.0%	2.2%
保護者について	19 保護者は、園の教育・保育方針や運営方針に関心を持っている	64.0%	34.3%	1.1%	0.0%	0.6%
	20 家庭では、早寝、早起き、朝ごはんなど基本的生活習慣に取り組んでいる	56.3%	42.0%	1.7%	0.0%	0.0%
	21 家庭では、おはよう、ただいま、おやすみ、ありがとう等のあいさつを励行している	77.9%	22.1%	0.0%	0.0%	0.0%
	22 家庭では、ふわふわ・ちくちくことばの理解をして、言葉に気をつけている	41.4%	54.7%	2.2%	0.6%	1.1%
	23 保護者は、園の行事など積極的に参加している	78.4%	20.4%	0.6%	0.0%	0.6%
	24 保護者は、子育てについて身近な人に相談している	65.7%	27.6%	3.9%	2.2%	0.6%

認定こども園専修大学北上幼稚園

1. 年齢別

0歳児・1歳児・2歳児・3歳児・4歳児・5歳児

2. 年齢別在園児数

(令和5年5月1日現在)

年 齢	入園定員	男 子	女 子	計
0 歳 児	3	2	0	2
1 歳 児	15	5	10	15
2 歳 児	18	6	12	18
3 歳 児	52	19	33	52
4 歳 児	52	25	29	54
5 歳 児	52	22	31	53
合 計	192	79	115	194

3. 入園志願状況

(令和6年3月31日現在)

年 齢	男 子	女 子	計
0 歳 児	2	1	3
1 歳 児	6	6	12
2 歳 児	2	2	4
3 歳 児	14	16	30
4 歳 児	1	2	3
5 歳 児	1	1	2
合 計	26	28	54

令和5年度 決 算 の 概 要

「資金収支計算書」

(1) 収入の部

収入の部では、当年度収入合計が予算比2.5% 増の 1,542,142,846円となり、前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計では予算比 37,945,846円増の 2,808,036,727円となっている。

学生生徒等納付金収入

予算額 544,060,000 円 決算額 549,692,500 円 差 異 5,632,500 円 増
納付金完納者数は高等学校 797名、専門学校 168名、こども園 195名。

手数料収入

予算額 12,450,000 円 決算額 12,450,600 円 差 異 600 円 増
志願者数は、高等学校 838名、専門学校 48名（同窓生推薦受験等の受験料免除者は含まず）

寄付金収入

予算額 21,400,000 円 決算額 26,782,974 円 差 異 5,382,974 円 増
主に高校校舎建替一体整備事業資金募金による。

補助金収入

予算額 665,680,000 円 決算額 682,149,900 円 差 異 16,469,900 円 増
補正予算後の内示による高等学校補助金等の増による。

付随事業・収益事業収入

予算額 31,800,000 円 決算額 38,131,189 円 差 異 6,331,189 円 増
高等学校実習工場の補助活動収入等の増による。

資産売却収入

予算額 280,000 円 決算額 580,000 円 差 異 300,000 円 増
専門学校グランドピアノ売却の増による。

受取利息・配当金収入

予算額 10,000 円 決算額 19,345 円 差 異 9,345 円 増
預金利息による。

雑収入

予算額 38,090,000 円 決算額 40,810,890 円 差 異 2,720,890 円 増
依頼退職者の(社)岩手県私学振興会よりの退職交付金等による増。

前受金収入

予算額 49,160,000 円 決算額 50,306,000 円 差 異 1,146,000 円 増
令和6年度入学予定者の入学(園)一時金と学生寮の令和6年度分寮費です。

(2) 支出の部

支出の部では、翌年度繰越支払資金を除いた当年度支出合計が、予算比 39,410,460円 減の

1,845,427,540円となっている。

人件費支出

予算額 783,480,000 円 決算額 778,198,091 円 差 異 5,281,909 円 減
教員の休職等による本務教員給与支出の減による。

教育管理経費支出

予算額 357,525,000 円 決算額 328,347,741 円 差 異 29,177,259 円 減
経費圧縮による減。

借入金等利息支出

予算額 12,435,000 円 決算額 12,409,509 円 差 異 25,491 円 減
高等学校校舎借入、こども園園舎借入に伴う支払利息による。

借入金等返済支出

予算額 67,200,000 円 決算額 67,200,000 円 差 異 0 円
高等学校校舎借入、こども園園舎借入に伴う返済による。

施設関係支出

予算額 509,560,000 円 決算額 507,660,035 円 差 異 1,899,965 円 減
高等学校校舎建替一体整備事業による。

設備関係支出

予算額 106,500,000 円 決算額 124,755,933 円 差 異 18,255,933 円 増
高等学校及び専門学校のLED照明切替工事について5年のリース料を機器備品に計上したことの増による。

資産運用支出

予算額 70,000,000 円 決算額 70,000,000 円 差 異 0 円
高等学校借入返済金準備引当特定資産、施設設備拡充引当特定預金、法人基金準備資産繰入支出による。

その他の支出

予算額 40,159,000 円 決算額 53,508,134 円 差 異 13,349,134 円 増
預り金支払支出の増による。

「事業活動収支計算書」

前記の資金収支計算書と共通の科目があるので、事業活動収支特有のものについて説明。

1. 教育活動収支

収入の部では、予算比2.9%増の1,174,593,885円となり、支出の部は、予算比2.1%減の1,513,491,750円となった。教育活動収支差額は、予算比16.2%増の△338,897,865円となった。

(1) 事業活動収入の部

寄付金

予算額 5,000,000 円 決算額 7,141,895 円 差 異 2,141,895 円 増
施設設備寄付金及び施設設備の現物寄付を除いた特別寄付金による。

経常費等補助金

予算額 510,580,000 円 決算額 526,194,344 円 差 異 15,614,344 円 増
施設設備補助金以外の補助金となる。

付随事業収入

予算額 31,800,000 円 決算額 38,303,656 円 差 異 6,503,656 円 増
高等学校自動車整備実習工場の棚卸品等が含まれる。

(2) 事業活動支出の部

教育管理経費

予算額 763,032,000 円 決算額 735,293,659 円 差 異 27,738,341 円 減
減価償却額 184,412,094円が含まれる。

2. 教育活動外収支

収入の部では、予算比 93.5% 増の 19,345円となり、支出の部は、予算比 0.2% 減の 12,409,509円となった。

教育活動外収支差額は、予算比 0.3% 増の △12,390,164円となった。

経常収支差額では、予算比 15.7% 増の △351,288,029円となった。

3. 特別収支

収入の部では、予算比 5.5% 増の 184,313,144円となり、支出の部は、3,374,701円となった。
特別収支差額は、予算比 5.4% 増の 180,938,443円となった。

(1) 事業活動収入の部

資産売却差額

予算額 0 円 決算額 580,000 円 差 異 580,000 円 増
専門学校ピアノ、こども園マイクロバスの売却による。

その他の特別収入

予算額 174,693,000 円 決算額 183,733,144 円 差 異 9,040,144 円 増
施設設備寄付金及び現物寄付及び施設整備補助金による。

(2) 事業活動支出の部

資産処分差額

予算額 2,955,000 円 決算額 3,374,701 円 差 異 419,701 円 増
耐用年数の経過した設備・施設処分差額による。

「貸借対照表」

貸借対照表は、令和6年3月31日現在の資産・負債・基本金等の状況を前年度末と対比して表示している。

この表は、資産の部・負債の部・純資産の部・負債及び純資産の部からなり、増減の△は減を示している。

資産の部

本年度末金額 5,629,703,331 円 前年度末金額 5,824,181,172 円 差 異 194,477,841 円 減
前年度末に対し 3.3%の減。

資産には固定資産と流動資産があり、

固定資産は

本年度末金額 4,472,601,650 円 前年度末金額 4,186,187,879 円 差 異 286,413,771 円 増
前年度末に対し 6.8%の増。

流動資産は

本年度末金額 1,157,101,681 円 前年度末金額 1,637,993,293 円 差 異 480,891,612 円 減
前年度末に対し 29.4%の減。

負債の部合計

本年度末金額 1,462,116,671 円 前年度末金額 1,486,244,926 円 差 異 24,128,255 円 減
前年度末に対し 1.6%の減。

固定負債は

本年度末金額 1,231,694,680 円 前年度末金額 1,279,029,696 円 差 異 47,335,016 円 減
前年度末に対し 3.7%の減。

流動負債

本年度末金額 230,421,991 円 前年度末金額 207,215,230 円 差 異 23,206,761 円 増
前年度末に対し 11.2%の増。

純資産の部合計

本年度末金額 4,167,586,660 円 前年度末金額 4,337,936,246 円 差 異 170,349,586 円 減
前年度末に対し 3.9%の減。

基本金

本年度末金額 5,785,248,518 円 前年度末金額 5,463,494,082 円 差 異 321,754,436 円 増
前年度末に対し 5.9%の増。

繰越収支差額

本年度末金額 △1,617,661,858 円 前年度末金額 △1,125,557,836 円 差 異 △492,104,022 円 減
前年度末に対し 43.7%の減。

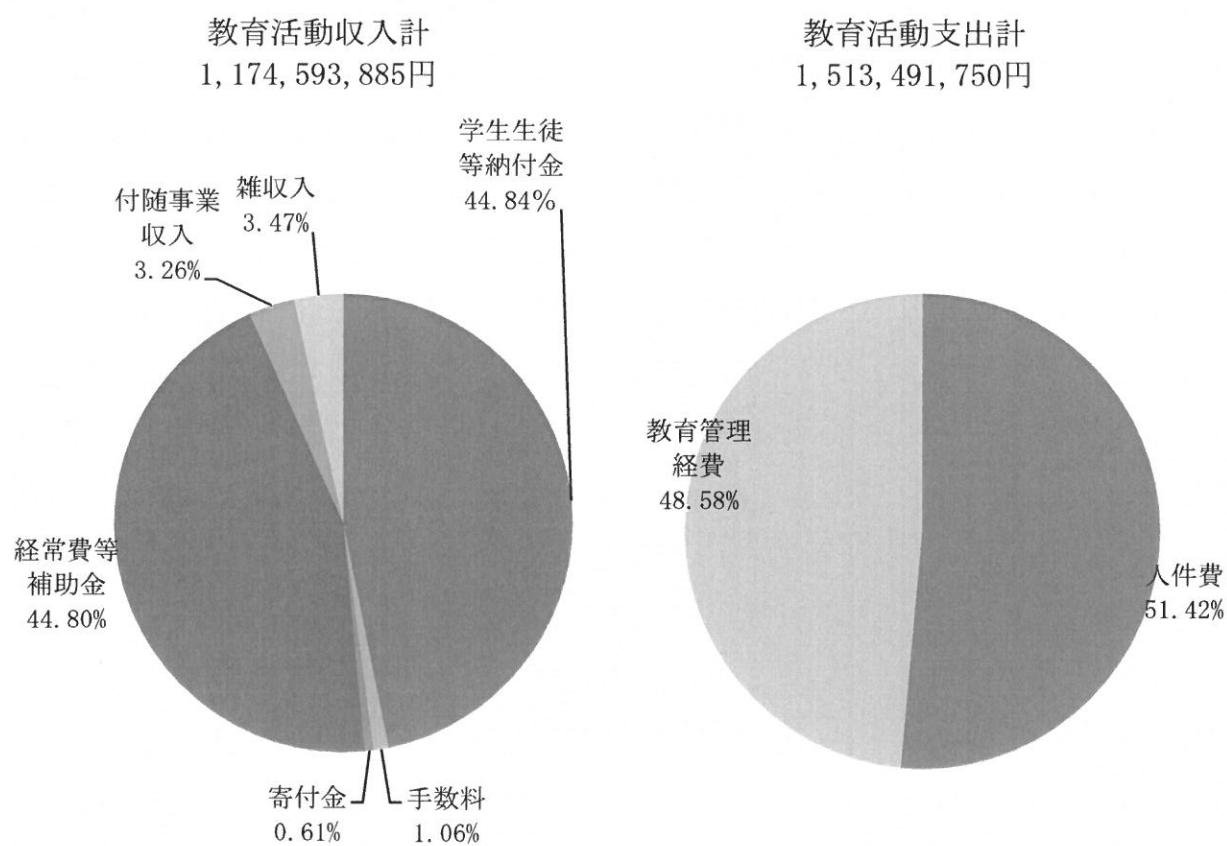
負債及び純資産の部合計

本年度末金額 5,629,703,331 円 前年度末金額 5,824,181,172 円 差 異 194,477,841 円 減
前年度末に対し 3.3%の減。

以上

(表1)

令和5年度 事業活動収支科目別構成グラフ



(表2)

主 要 財 務 比 率

比 率	算 式 (× 100)	令和3年度 (決 算)	令和4年度 (決 算)	令和5年度 (決 算)
人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}} \times 100$	68.31% (64.2%)	67.17% (63.2%)	66.25%
人 件 費 依 存 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}} \times 100$	152.40% (120.9%)	145.59% (119.7%)	141.57%
教 育 管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{教 育 管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}} \times 100$	42.26% (28.4%)	39.47% (29.9%)	62.60%
事 業 活 動 収 支 差 額 比 率	$\frac{\text{基 本 金 組 入 前 当 年 度 収 支 差 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}} \times 100$	-2.26% (2.1%)	17.55% (1.8)	-12.54%

※ 経常収入は、教育活動収入計と教育活動外収入の合計

※ () 内は日本私立学校振興・共済事業団調査による高等学校部門平均値を示す。